

森づくりの最前線

上越森林管理署 妙高森林事務所 森林官 栗本 誠一



新緑の関田山脈

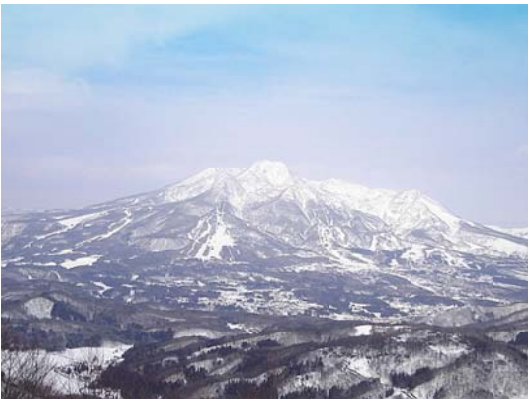
私の勤務する妙高森林事務所と兼務する高田森林事務所は、新潟県の最南部に位置する上越市、妙高市と十日町市の一部を管轄しており、その多くの国有林は長野県との県境付近にあります。国有林面積は妙高森林事務所で約11千畝、高田森林事務所で約8千畝と合わせて約19千畝あり、そのうち人工林の面積は1割弱で多くが天然林となっています。また、区域のほとんどは自然公園に指定されています。

上越といえば豪雪地帯として有名ですが、近年は昔に比べ降雪量は少なくなっているというものの、事務所付近では1畝を超える積雪があります。

管内には、10のスキー場があり、近年は、スキーやスノーボードで樹林帯の内部を滑走するツリーランが人気で、各スキー場では禁止区域での滑走者への対策に苦心しています。

管内には、深田久弥が記した日本百名山のうち火打山、妙高山、高妻山があり、一昨年には全長80キロメートルを超える信越トレイルが完成し、登山・トレッキングを楽しむ多くの方々に利用されています。

また、妙高市は森林セラピー基地として整備を進めており、国有林内でも笹ヶ峰自然休養林内の歩道がセラピーロードとして登録されています。



冬の妙高山

(左から杉ノ原・池の平・赤倉周辺スキー場)

今年は、平成23年度から5年間の事業実施に係る森林計画策定期間にあたり、それに合わせ、管内をつぶさに見て回りましたが、雪のせいか生長の思わしくないところもあり、そうした取り扱いが難しいところがあります。

また、カシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害については、数年前まで多く発生していましたが、最近では、それも一段落してきました。今年の春先から妙高山周辺でブナの葉が枯れる被害が発生しており、夏時期に入ると同様の被害が高田事務所管内の関田山脈方面でも確認されました。原因はまだ調査中であり、注意深く監視しています。



信越トレイル

現在、森林への期待は、地球温暖化防止への貢献や貴重な動植物の生息の場としての働きなど多様化し、より一層の公益的機能の発揮が求められています。一方では、先人は森林を資源として無駄にせず利用してきた歴史があり、最近では、木質バイオマスやペレットとしての利用促進など資源としての森林の価値は高まってきているものと思います。

森づくりの最前線としてニーズに合った管理を目指していきたいと思っております。



秋の妙高山